

花王のアプローチ

花王は法を遵守し、高い倫理観を持って公正・公平な購買活動を推進しています。持続的発展が可能な社会の実現をめざし、資源保護・環境保全や安全、人権などに配慮し、企業としての社会的責任を果たします。

社会的課題と花王が提供する価値

花王は企業の社会的責任を果たすため、「調達基本方針」に則った「公正・公平」「遵法・倫理」「社会的責任」を基本姿勢とする持続可能で責任ある調達活動を推進しています。

購買取引を行なうにあたり、国の内外を問わず合理的な基準に基づき公正に競争の機会を提供し、法の遵守と倫理の尊重を実践します。

また、持続的発展可能な社会の実現への貢献をめざし、省資源、地球温暖化防止、生物多様性保全などの環境側面、安全・衛生、労働環境、人権などの社会側面に十分配慮し、企業としての社会的責任を果たしていきます。



→詳細は「調達基本方針」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/policy.html>

貢献するSDGs



方針

花王は「調達基本方針」に則った調達活動を具体的なものとするため、「調達先ガイドライン」および「原材料調達ガイドライン」を制定しています。

花王はサプライヤーを“よきモノづくり”に不可欠なパートナーと考え、「調達先ガイドライン」に基づき、調達活動に取り組んでいます。また、法令や社会規範の遵守、人権の擁護、安全衛生の確保、公正な取引等、社会的責任に配慮されているサプライヤーや、環境マネジメントシステムをはじめ、花王が配慮すべき環境項目にご協力いただけるサプライヤーからの調達を優先しています。さらに、環境に配慮した原材料や包装容器の調達を優先しています。

花王とサプライヤーとの間で締結する取引基本契約書においては、上記の環境・人権・労働等に関する条項を明記しています。

また、地球温暖化、生物多様性の劣化などの環境問題、資源制約や人権などの課題を踏まえ、「原材料調達ガイ

ドライン」に基づいた持続可能な調達に取り組んでいます。

さらに花王は、事業が自然資本に依存していることを認識し、パーム油や紙等の調達に関しては原産地での森林破壊ゼロを支持しています。中長期的には、原材料の徹底的な使用量削減や、藻類のような非可食バイオマス由来の原材料等への転換に取り組むとともに、グローバル化により顕在化してきた倫理的な課題にも配慮して、持続可能で責任ある調達を推進します。



→詳細は「調達先ガイドライン」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/supplier-guidelines.html>

→詳細は「原材料調達ガイドライン」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/raw-materials-guidelines.html>

体制

購買部門では、企画部サステナビリティグループとともに、購買部門サステナビリティ戦略部会を設け、持続可能で責任ある調達を実行するための戦略を策定しています。

その戦略のもと、原料部および包材部は「原材料調達ガイドライン」に則った調達を進め、間接材部は文具・事務用品などのグリーン購入、機器部は環境に対応した設備・機器の導入を推進しています。

教育と浸透

従業員研修や啓発を実施(日本)

花王では、新たに購買部門に配属された従業員に対し、「公正・公平」「遵法・倫理」「社会的責任」などの購買基本姿勢について教育しています。教育を通じてISO26000や国連グローバル・コンパクトで求められている、人権・労働などグローバルな社会的課題についての認識を持つようにしています。

2017年は、新たに購買部門に配属された従業員7人に対し購買基本姿勢について教育しました。

検定受験の推進(日本)

購買部門の社員一人ひとりが社会や環境との関係を認識し、行動を変革するための教育として、2012年度より環境社会検定試験®(eco検定®※1)の受験を推進しています。また、2015年からは、ビジネスコンプライアンス検定®※2の受験を推進しています。

2017年の部門在籍者の累計合格者はeco検定が71%、ビジネスコンプライアンス検定が64%でした。

グローバル調達会議(グローバル)

関係会社の購買担当マネジャーが出席するグローバル調達会議を年一回開催しています。この会議において、花王グループの調達方針や持続可能で責任ある調達について教育と確認を行なっています。

※1 eco検定

環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の促進をめざした検定試験。東京商工会議所により2006年から運営されている。

※2 ビジネスコンプライアンス検定

コンプライアンスを法令の背後にある「社会的要請に応えること」ととらえ、企業にとって重要な法令を体系的に理解するコンプライアンス・スキルの養成をめざした検定試験。サーティファイ コンプライアンス検定委員会により2005年から運営されている。

中長期目標と実績

中長期目標

1. 持続可能な原材料の調達

認証原材料の調達

花王は森林破壊ゼロに向けた取り組みとして、パーム油、紙・パルプについて2020年までの持続可能な原材料の調達への切り替えをめざしています。

パーム油・パーム核油の調達においては、RSPO^{※1}に加盟して関連工場のSCCS^{※2}認証取得と認証油の調達を進めるとともに、2020年までの、原産地まで追跡可能なパーム油・パーム核油の全量調達へ向けた取り組みを進め、2015年末にはそれぞれのミル(搾油工場)まで追跡可能であることを確認しています。ミルまで追跡可能であることが確認できていない誘導体については、引き続き確認を進めるとともに、RSPO 認証原料を購入するなどの補完措置を講じます。

紙とパルプの調達においては、2020年までに花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙または持続可能性に配慮したものみの購入をめざすとし、特にパルプは2020年までに原料木材産出地の追跡可能なパルプのみの購入をめざします。

天然植物資源の持続可能な調達

天然植物資源の枯渇や資源収奪の問題を認識し、ABS^{※3}を考慮した天然植物資源の調達を推進しています。また、原産地の自然環境やコミュニティに配慮しながら、調達ルートの多様化・変更や人工栽培品への切り替えにも取り組んでいます。

2. 人権への取り組み

さまざまな人権問題のリスクに対応するため、2015年に「花王人権方針」を定め、花王の活動に加えサプライヤーへも「調達先ガイドライン」に基づく人権のための行動を要請し、人権デュー・ディリジェンスを実施する方針です。

このリスクを評価するため、2014年に世界的な企業倫理情報共有プラットフォームであるSedexに加盟し、サプライヤーにも加盟を要請しています。2020年までにサプライヤーのSedex加盟率70% (国内: 購入金額ベース)をめざします。

また、2017年よりSedexを活用したサプライヤーリスクアセスメントを進めています。

3. グリーン購入

文具・事務用品など間接材の購入においては、環境省が提唱するグリーン購入を推進するため、「グリーン購入基準」を定め、環境に配慮した物品を優先的に購入しています。

機器・設備の導入においても、LED照明の導入、電力のCO₂排出係数が小さい電力会社との契約など環境対応を推進しています。

※1 RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil)

持続可能なパーム油の生産と利用を促進するための円卓会議
<http://www.rspo.org/>

※2 SCCS (Supply Chain Certification System)

生物多様性保全のための厳しい条件をクリアし、RSPOに認められた農園で収穫した持続可能なパーム油を使った製品を生産・販売し、消費者に届ける目的でつくられたサプライチェーンシステム

※3 ABS (Access and Benefit Sharing)

先進国や多国籍企業による原産国(主として途上国)の生物資源(遺伝資源)の収奪問題などに対応し、遺伝資源の探索・開発とその利用から生じる利益の公正・衡平な配分のことで、生物多様性条約の目的の一つとして規定されている

2017年の実績

1. 持続可能な原材料の調達

認証原材料の調達

- ・パーム油・パーム核油の調達
- ・紙・パルプの調達



→詳細はP138「具体的な取り組み:持続可能なパーム油・パーム核油の調達に向けての取り組み」

→詳細はP139「具体的な取り組み:持続可能な紙・パルプの調達に向けての取り組み」

天然植物資源の持続可能な調達

化粧品・医薬部外品に使用しているグリチルリチン誘導体は、マメ科植物である甘草から製造されます。生物多様性の保全と持続可能な利用に努めるため、2016年から自生甘草由来から栽培地が特定された栽培甘草由来のグリチルリチン誘導体への切り替えを進めています。

2. 人権への取り組み



→詳細はP140「具体的な取り組み:サプライヤーとの連携/Sedex(人権への取り組み)」

3. グリーン購入

2017年の「グリーン購入基準」達成率は84%でした。

ステークホルダーとの協働

持続可能な調達

パーム油および紙・パルプの持続可能な調達を、認証品の購入とトレーサビリティの確認の2つの方法で進めています。認証パーム油および認証紙については、国内のサプライヤーにも認証取得を求め、調達を開始しました。

トレーサビリティの確認については、原材料サプライチェーン情報の第三者機関による検証およびリスクアセスメントを実施しています。

サプライヤーとの協働

花王は、Sedex、ベンダーサミット、品質向上会議、CSRセルフアセスメントのモニタリング、CDPサプライチェーンプログラム等さまざまな取り組みを通じて、サプライヤーとの連携を強化し、グローバルな調達の推進に取り組んでいます。



→詳細はP140「具体的な取り組み:サプライヤーとの連携」

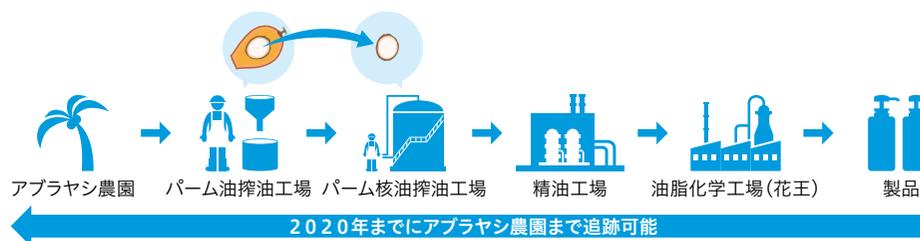
具体的な取り組み

持続可能なパーム油・パーム核油の調達に向けての取り組み

花王は、基本原料の一つであるパーム油・パーム核油の調達において「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。

また、RSPOのメンバーとして活動し、追跡可能なサプライチェーンの構築に努めています。

パーム油・パーム核油の調達



「持続可能なパーム油」の調達ガイドラインにおける目標と2017年実績

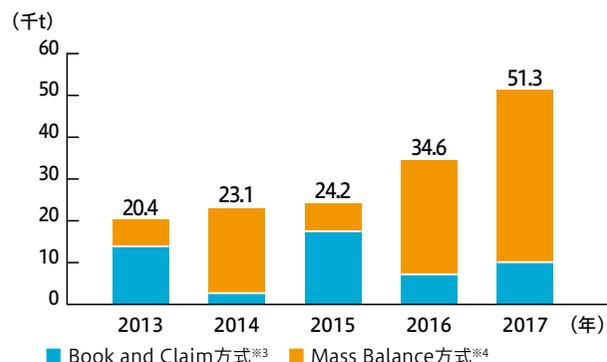
パーム油・パーム核油の調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明し、4つの目標を掲げて取り組んでいます。

目標	2017年実績
① 2015年末までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、ミル(搾油工場)まで原産地追跡可能なもののみを購入することをめざします。	サプライヤー(精油工場)情報によるパーム核油搾油工場までのトレーサビリティの確認:100% 第三者機関による上記サプライヤー情報の検証:2社
② 2020年までに、農園(プランテーション)、サプライヤー(ミル、リファイナー)および第三者機関との協働により、原産地の森林破壊ゼロを十分に確認します。私たちは、保護価値の高い(HCV※1)森林、炭素貯蔵量の多い(HCS※2)森林および泥炭湿地林の開発に加担しません。	トレーサビリティ確認済みの一部パーム油搾油工場に対しての第三者機関リスクアセスメント: サプライヤー4社のサプライチェーン上のパーム搾油工場(のべ約900工場) 要観察パーム油搾油工場の現地調査:1工場
③ 2020年までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、農園まで原産地追跡可能なもののみを購入します。	サプライヤー情報によるパーム油搾油工場までのトレーサビリティの確認:購入量の約97% 第三者機関によるパーム核油搾油工場の検証:地域を代表する7工場 トレーサビリティの確認にBluenumberを活用:詳細はP140「サプライヤーとの連携」参照
④ 2020年までに、花王グループ工場のRSPO SCCS 認証取得をめざし、花王グループの追跡可能なサプライチェーンの構築に努めます。	RSPO SCCS 認証取得数:国内外のグループ工場およびオフィスの28サイト

目標①と目標③の過去5年間の実績

項目	実績					目標			
	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	
花王グループで使用するパーム核油・パーム油を農園まで追跡する活動の進捗									
パーム核油搾油工場	—	—	追跡完了	継続して確認	継続して確認	継続して確認	継続して確認	継続して確認	
パーム油搾油工場	—	—	追跡中	追跡中	追跡中	追跡完了	継続して確認	継続して確認	
アブラヤシ農園	—	—	追跡中	追跡中	追跡中	追跡中	追跡中	追跡完了	

花王グループの認証油購入実績



※ 消費者向け製品におけるパーム油・パーム核油およびその誘導体の合計
 ※ 一部データを見直し、2016年の数値を変更しています。

IOIグループのRSPO認証停止に対する対応

2016年に発生したパーム油サプライヤーであるIOIのRSPO認証停止問題に対しては、同社からの購入を停止し改善を求めてきました。2017年は改善の進捗を面談等において確認し、購入再開に向けた協議を継続しています。

- ※1 HCV(High Conservation Value)
- ※2 HCS(High Carbon Stock)
- ※3 Book and Claim方式
RSPO認証のパーム油のクレジットを取引するシステム。RSPOにより認証された農園が生産、登録したパーム油の量に応じて発行された「認証クレジット」を購入することで、クレジットに応じた量の認証パーム油を購入したとみなすことができる。本方式では、農園での認証油の生産を促進することができる。
- ※4 Mass Balance方式
RSPO認証パーム油と非認証パーム油が混じることが許された認証システム。

持続可能な紙・パルプの調達に向けての取り組み

花王は、紙・パルプの調達において「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。

FSC認証紙の導入については、2013年より自社製品の容器包装へのFSC認証紙の導入を開始し、携帯用リセッシュのシュリンク台紙に始まり、ヘアカラー、蒸気が出る温熱シート、入浴剤、歯磨き等の個装箱や化粧品の紙器への導入を進めてきました。また、2016年には日本で初めてFSC認証を受けた段ボールを導入しました。2017年は、7月に衣料用粉末洗剤(アタック、ニュービーズ)の本体箱およびフタにFSC認証紙を導入しました。

「持続可能な紙・パルプ」の調達ガイドラインにおける目標と2017年実績

紙・パルプの調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明しています。

目標	2017年実績
2020年までに、花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙、または持続可能性に配慮したもののみを購入します。古紙パルプ以外のパルプ(バージンパルプ)を使用する場合は、原料木材産出地の追跡可能なパルプのみを購入し、サプライヤーおよび第三者機関との協働により、原料木材の産出地の森林破壊ゼロを十分に確認します。	追跡可能な紙・パルプ:99.8%(認証品の購入含む) 2017年7月に衣料用粉末洗剤(アタック、ニュービーズ)の本体箱およびフタにFSC認証紙を導入

サプライヤーとの連携

Sedex(人権への取り組み)

サプライヤーのモニタリングを標準化された方法でグローバルに推進し、人権デューデリジェンスにおけるリスクの潜在個所を特定するため、2014年に世界的な企業倫理情報共有プラットフォームである Sedex に加盟し、サプライヤーに対しても Sedex への加盟、質問への回答、データへのアクセス権の設定の要請を進めています。2017年末時点で、グローバルで908サイトとのアクセス権が設定されました。日本では408サイトとのアクセス権が設定され、購入金額の65%をカバーしています。

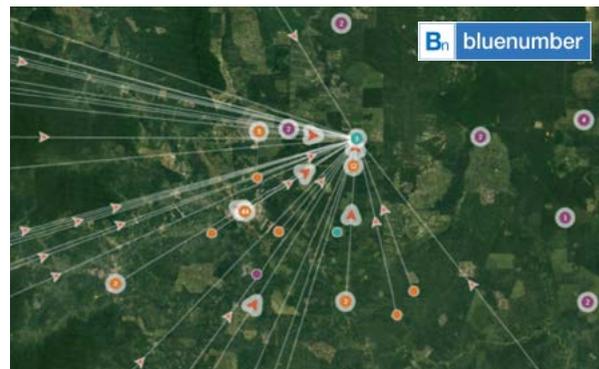
また、Sedexを利用したサプライヤーリスクアセスメントを開始しました。回答率が90%以上のサプライヤーの中、リスク発生の可能性が高いと判定されたサプライヤーは0.4%でした。これらのサプライヤーに対してはリスクの詳細確認を行なった上で、必要に応じて改善を求めています。

Bluenumberへ参画

2017年7月にパーム油のトレーサビリティと透明性の確立をめざしてブルーナンバー(Bluenumber)※に参画しました。ブルーナンバーは、グローバルでの農作物のトレーサビリティ確立をめざす仕組みです。パーム油においては、農園、パーム油搾油工場、パーム核油搾油工場、精製工場に自身や労働者の属性、生産拠点、生産物、活動内容に関する情報の登録を働きかけることにより、トレーサビリティの確認に活用していきます。

※ Bluenumber

「国連持続可能な開発サミット」において2015年9月29日に発足。労働者・生産者・地方の農村地域に住む人々のデジタル経済への参画を促す。ニューヨーク、クアラルンプール、東京、ダッカにオフィスを置く。



Bluenumberでのミルの登録状況(イメージ)

調達先ガイドライン遵守状況

環境、安全、法令と社会規範の遵守、人権・労働問題の取り組みなどを定めた「調達先ガイドライン」を制定し、その遵守状況のセルフアセスメントをモニタリングしています。このセルフアセスメントでは、法令遵守・人権・取引慣行等の社会的責任の項目と汚染防止(大気、水等)を含めた環境方針・環境目標・各種管理等の環境保全の項目を確認しています。

基準に満たないサプライヤーには、訪問して課題を共有するとともに、改善に向けた取り組みを実施しています。

なお、2017年6月、サプライヤーにも花王と同様の人権・環境への配慮を求めため、「調達先ガイドライン」の改訂を行ないました。今回の改訂では、取引先の「調達先ガイドライン」遵守状況の確認を新たに定めており、この確認に Sedex を活用していきます。

社会面 モニタリング企業数と基準を達成している企業比率

	花王(株)取引先企業	アジア花王グループ取引先企業
2013年	883社(99%)	726社(98%)
2014年	906社(99%)	823社(98%)
2015年	1,168社(96%)	994社(98%)
2016年	1,602社(92%)	1,166社(98%)
2017年	1,705社(92%)	1,198社(98%)

環境面 モニタリング工場数と基準を達成している工場比率

	花王(株)取引先工場	アジア花王グループ取引先工場
2013年	818工場(99.5%)	541工場(98%)
2014年	879工場(99%)	608工場(97%)
2015年	1,254工場(97%)	750工場(97%)
2016年	1,616工場(94%)	838工場(97%)
2017年	1,689工場(94%)	842工場(96%)

ベンダーサミットを実施

花王では、国内外で毎年サプライヤーとの情報共有・意見交換の場として「お取引先懇談会」を開催し、年度ごとにテーマを決めてコミュニケーションを図っています。

2017年の国内のベンダーサミットにおいては、2016年実施の「お取引先満足度調査」の結果報告、持続可能で責任ある調達の取り組みであるCDPサプライチェーンプログラム^{※1}への積極的な協力およびSedexへの加盟を依頼しました。また、2016年からお取引先表彰制度を開始しており、「品質」「価格」「納入」「情報提供」「経営・サステナビリティ」の観点で優秀なお取引先を表彰しました。

2017年は、(株)レスポンスアビリティの足立直樹氏に「経営課題としての持続可能な調達」と題し持続可能な調達に取り組む意義、今後企業に求められる取り組み等について講演していただきました。

ベンダーサミット出席会社数（単位：社）

	国内開催	海外開催	合計
2013年	184	151	335
2014年	183	233	416
2015年	214	285	499
2016年	246	279	525
2017年	245	258	503

CDPサプライチェーン

花王は、資源制約、生物多様性の劣化や地球温暖化などの環境問題、人権問題などを踏まえ、持続可能な開発におけるリスクを認識し、持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。これらの取り組みは、サプライチェーン全体で管理することが重要であり、気候変動および水についてCDPサプライチェーンプログラム^{※1}に参加し、主要なサプライヤーに情報開示を依頼しています。2017年の回答率は気候変動が74%、水が65%でした。

また、森林資源に関わる項目はCDPフォレスト^{※2}に回答することを通じ、リスク評価を行なっています。

※1 CDPサプライチェーンプログラム

CDPとは、機関投資家の運営による、ロンドンに本部を置く非営利団体であり、気候変動、水、森林に関する情報開示を企業等に求める活動等を行なっている。サプライチェーンプログラムとは、メンバー企業が自らのサプライヤーに対し、気候変動・水に関わる情報開示をCDPプラットフォームを用いて求める取り組み。

※2 CDPフォレスト

CDPによる森林資源の管理・利用状況等の情報開示を企業に求める取り組み。

サプライヤーへの満足度を調査

花王は、公正・公平な調達活動が行なわれているかを確認するため、「お取引先満足度調査」を3年ごとに実施しています。直近では、2016年に調査を実施し、「発注先選定」「品質」「発注」「接客」「コミュニケーション」等についてお取引先より貴重なご意見をいただき、課題も確認されました。

購買部門は「コンプライアンス通報・相談窓口」の周知、生産部門との発注に関する意見交換および設問対象の明確化を実施します。

NGO・機関投資家との円卓会議

2017年9月19日、花王は、NGOの一般社団法人CSRレビューフォーラム[※]と機関投資家のりそな銀行アセットマネジメント部と共に、調達活動についての円卓会議を行ないました。

これは花王にとってNGO・機関投資家と共に行なう初めての会議で、花王からは購買部門に加え、IRやサステナビリティの担当者が出席しました。調達活動における環境・社会両面からのさまざまな課題認識の共有と、課題解決に向けた花王の取り組みについて2時間にわたり話し合う、意義深いものとなりました。



会議での活発な意見交換

[※] CSRレビューフォーラム

持続可能な社会に向けて、社会の最前線で課題解決に取り組む複数の市民組織（NGOや消費者団体等）とそこに所属する個人がアライアンスを組んで設立した民間の非営利組織

<http://www.csr-review.jp/>



一般社団法人
CSRレビューフォーラム
共同代表
山口 智彦氏

CSRレビューフォーラムと機関投資家であるりそな銀行は、NGO／NPOと機関投資家がチームを組んで企業と対話することでステークホルダー・エンゲージメントを深化させていこうと考え、議論を進めてきました。最初のテーマを「パーム油」とし、生産地における状況などを学ぶなか、取り組みがもっとも進んでいる花王からお話を伺おうと考えて三者の対話を実現しました。

花王の調達活動は高い目標を掲げており、それをまっすぐにマネジメント化されています。特にパーム油については、アブラヤシ農園から油脂化学工場での生産までの全体像を会議の中で深く理解することができました。ここでの一番の成果は、りそな銀行が機関投資家としてパーム油課題の深層を理解することにつながったことでした。

次に花王への期待をパーム油の調達に絞って述べさせていただきます。

2020年までに消費者向け製品に使うパーム油の全量を原産地追跡可能で、かつ社会・環境に配慮したもののみを購入すると決断されたことに深く敬意を表し

ます。一方、業務用パーム油に目を転じると調達コストが障壁となっているであろうことも想像でき、その状況を具体的な数値等を挙げて解説すれば消費者の理解を一步深めることができるのではないのでしょうか。花王はシャンプーや洗剤など日常生活で使用する商品を多く扱っており、広く消費者に直接訴える力を持っています。持続可能な調達を進めつつ、消費者への啓発活動を継続されることを期待します。